

「養父市学校整備(再編)計画」を策定しました

概要

養父市・養父市教育委員会

▼背景・経緯

少子化により学校の小規模化が急速に進む中、児童生徒が学習生活や集団生活を通して充実した学校生活を送り、様々な友達とのかかわりの中で、豊かな人間性、社会性を身につけ、互いに切磋琢磨して心豊かなたくましい子どもに育てていくためには、学校はある程度の規模の人数や学級が必要であります。

このため、市教育委員会では、平成21年7月に、養父市立学校整備計画策定委員会を設置し、学校の適正規模・適正配置に関すること及び学校施設整備計画の策定に関することについて諮問をし、平成22年2月に答申をいただきました。

答申の趣旨を尊重し、本市の現状と課題を認識した上で、地理的条件、地域的特性、歴史的な過程に配慮しながら学校整備計画基本方針をまとめ、小学校の統合について該当する小学校区に説明を行い、このたび、学校整備(再編)計画を策定しました。

▼基本的な考え方

学校統合により、ある程度以上の規模を確保し、より良い教育環境の中で子どもの育成をしていく必要があります。ある程度以上の規模とは、「複式学級に至らない児童数を学校規模の下限」とし、すべての学年が単式学級になる規模を考えます。

▼市立小中学校の配置について

平成24年4月1日に、小佐小学校を八鹿小学校に、浅野小学校を広谷小学校に統合します。これにより、現在11小学校を平成24年4月に9校に再編します。統合によって通学距離が遠くなりますが、通学方法をバス通学とし、安全な通学を確保します。

中学校は、旧町域に1校ずつの4校体制とします。

▼学校施設整備について

学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習と生活の場であるとともに非常災害時には地域住民の応急避難場所となるなど地域の防災拠点としても重要な役割を担っており、その安全性の確保のため、耐震化事業を最重要課題として取り組み、耐震化率を平成24年度100%の目標にしています

*詳しくは、市教育委員会のホームページでもお知らせしています。

【お問い合わせ先】教育総務課 (☎664-1490)

拝啓 市民の皆様

今年ほど春の訪れが待ち遠しかったことはありません。例年になく雪の多い厳しい寒さが続き、春が来るのだろうかと心配になるほどでした。しかし、それも杞憂に終わり、いつの間にか野山に花が咲き乱れ、山は芽吹きの色に染まり、鳥はさえずり、地上の全てが喜びと躍動感に満ちた季節を迎えました。

ゴールデンウィークを迎え、いよいよ農作業が忙しくなってきましたが、本市の農業は小規模な経営面積と担い手の高齢化や後継者不足、画一的な国の農業施策などにより、衰退傾向にあります。また、最近の鳥獣害被害の増大は、農家の営農に対する意欲の減退に拍車をかけています。

経済的な貢献度は低いとはいえ、農業は今でも本市の基盤となる産業です。本市は、農業や林業が生活や経済の基盤となり、地域社会が形成され、地域の文化が創り出されてきました。農業がなくなるということは、先祖から受け継いできた地域独自の生活と文化を失うことにつながり、結果として養父市の活力の減少をもたらします。

このため、平成23年度において、自立し持続できる農業のあり方について調査・研究を行い、養父市にふさわしい農業経営のあり方を見つけ「養父市モデル」として打ち出したいと考えています。多くの市民の皆様からご提言をお待ちしています。

養父市長 広瀬 栄